

飢をシノイであると云ふことが、今や九州全小作人の目の前の問題となつてきたのである。

凶作キキンに襲はれてゐる、小作農民は今年こそ小作米の減免要求闘争を中心に、政府米の無料拂下ゲ（若くは政府米を外國の投資ネダン一升八錢で拂下ゲロ）肥料代無利子貸付、税金借金取立反對等地主、役場、縣廳に對する要求闘争を激烈にマキ起すにいたるであらう。小作農民の生活を守り生命をツナグための要求闘争に對し福岡縣では闘争抑壓の方法をとり、十月十一、十二日の九州小作官會議では争戰防止策について協議したかの如くである。亦福岡縣では旱害救済対策として飯米（政府米の拂下ゲ）労働賃銀（土木事業による）肥料資金の低資エウツウ等の三案を決定して政府に要求してゐるとの

ことであるか、かかる救済方法が飯米キキンに悩む小作農民の生活をワルホスことが出来るであらうか、救済案の内容がワカラまいたため、充分の批判が出来ないが、結局は政府米拂下代金、肥料資金の強制取立てに、小作農民の窮乏はヒドクなるばかりである。

## ニ、福岡縣下に於ける農民組合の勢力は

日本農民組合同盟一浮羽を中心に糸島、福岡、筑紫その他に分散して組織をもつてゐるか約二千位である）

全農福岡聯合會　一企救郡を中心に約二百五十、三井

郡勿体島その他二、三部落に八十

計三百三十餘

全農福佐聯合會　一朝倉、筑紫、三養基郡では各三百